

委員名	ご質問	都県名	ご質問に対する回答
清水委員	<p>・地震や濁水については、それぞれ事前の対策等がされているようであるが、昨年の台風19号による浄水施設の浸水、浸水による断水被害を経験し、豪雨災害に対しても、供給施設のリスク管理というのは大切になると思われる。</p> <p>・昨年の台風被害を受けて、新たなリスク管理の必要性はあったか。</p>	栃木県	<p>・水道施設については、浸水被害や道路の流失に伴う管路破損などにより、最大で5市2町で約1万3千戸（※フルプランエリア外を含む）の断水被害が発生した。</p> <p>・当県では、災害発生時の給水体制確保のため、被害報告や応援要請に係る連絡系統の見直しを実施した。</p> <p>・県営事業では、大規模災害発生時の体制強化を図るため、令和元年度に栃木県企業局水道事業等業務継続計画(BCP)を策定した。</p>
		群馬県	<p>・台風19号では県西部を中心に10市町村で配水管の破損や停電が発生し、断水が生じた。</p> <p>・浄水場における対策は現時点ではない。</p>
		埼玉県	<p>・埼玉県では、11の市町村水道において地滑りによる管路の破損や河川氾濫による浄水場の浸水などの被害を受け、8の市町村水道において断水があったが、他の市町村水道の応援給水により生活への影響を最小限に抑えることが出来た。これは、既存の地震対策などのリスク管理体制の成果と考えている。</p> <p>・なお、基幹となる県営水道(用水供給)には被害がなかったため、県水の供給エリアでは県営水道の増量により断水を回避できた。</p> <p>・被害を受けた水道施設では、既に復旧工事、対策工事に着手している。</p>
		茨城県	<p>・平成27年9月の関東・東北豪雨を契機に、浸水対策を実施してきたが、令和元年度の豪雨災害(台風19号)により、計画を前倒して、対策工事を実施している。</p> <p>・市町村等に対しては、補助事業(水道施設機能維持整備費)を周知し活用を促している。</p>
佐藤委員	<p>・水源地域と、それを利用する地域との間の交流について、県都をまたいで交流されているのか。あるいは県内で行われているのか。</p> <p>・交流がどの程度お互いの相互理解の深化に貢献しているかとみなしているか。</p>	栃木県	<p>・思川開発施設について、累計142名に参加いただいている。この142名の参加者のうち半数以上が、上下流交流の参加で初めて水源地である鹿沼市を訪れていることなどから、本事業により水源地と下流受益地の交流を創出し、水源地域の振興に寄与していると考えている。</p>
		群馬県	<p>・平成10年から、東京都の親子、群馬県内の親子の参加者を募り、利根川上流のみなかみ町や、ハッ場ダムがある長野原町などで、ダムの見学会や、自然公園の観察会を実施している。</p> <p>・参加者からは大変好評をいただいております、都民の方ももちろん、群馬県内の参加者についても、ダムの役割の大切や、構造物としての壮さや、立派なところなどの感想をいただいております。</p> <p>・ダムがある地域についても、そういったことに地域の人々が貢献していることについては、非常に理解をいただいていると考えています。</p> <p>・これまで延べ3600人以上の参加があり、交流事業を通じて水資源への理解が深まるだけでなく、本県の魅力を発信する機会となっている。</p>
		茨城県	<p>・県内を対象に実施している。(ハッ場ダムを水源としている市町村)</p> <p>・参加者に対して実施しているアンケートでは好評を頂いており、交流を通して相互理解が深まっていると考える。</p>

第12回利根川・荒川部会における「1都5県における渇水・大規模自然災害・施設の老朽化に対する取組状況等」についてのご質問と回答

資料2

委員名	ご質問	都県名	ご質問に対する回答
豊田委員	・群馬県の説明で、ため池の緊急点検が206か所と、非常に多くの箇所を緊急点検されているとの報告があったが、具体的にはどのような緊急点検をされているのか。	群馬県	・地震と豪雨に対する点検を行った。 ・地震については、ため池の耐震性能が確保されているかどうかを地質調査や土質試験、耐震計算等で判定した。 ・豪雨については、ため池が所定の流量を流下させることができる構造となっているか、堤体の高さが十分か、堤体からの漏水がないか、クラックや断面変形がないかを現地調査や流量計算等で判定した。
長岡委員	・想定する地震に対して、例えば震災直後は県民の何%に供給できる、あるいは3日後は何%になるとか、震災後にどういう状況になるかという、シミュレーション想定はしているか。している場合は、教えて欲しい。	栃木県	・県営の鬼怒水道用水供給事業、鬼怒工業用水道事業に係る栃木県企業局水道事業等業務継続計画（BCP）において、仮復旧目標時期を3日以内、本復旧目標時期を1ヶ月以内としている。
		茨城県	・復旧にかかる日数などのシミュレーションは実施していない。 ・なお、厚生労働省「水道の耐震化計画策定指針（H27.6）」、日本水道協会「地震時等緊急対応の手引き（R2.4）」のなかで、3日以内3割/人・日、7日以内20～30割/人・日、14日以内250割/人・日を目標とされており、参考としている。
沖部会長	・フルプラン地域とフルプラン地域外において、耐震化の進捗に及ぼす影響や維持管理面において、差が生じているのか。差し支えない範囲でお聞かせいただきたい。	栃木県	・県内の事業体に対して、フルプランエリアの内外で異なる指導や助言は行っていない。 ・県営事業では、エリア内に鬼怒水道用水供給事業と鬼怒工業用水道事業、エリア外に北那須水道用水供給事業を運営しているが、各事業とも安心安全な水の安定供給を図る必要があることから、フルプランエリア内外を問わず同じスピード感で取り組んでいる。
平林委員	・令和元年度の台風被害について、このような災害が今後増えてくると思われる。今回断水されたときに、断水を実施した期間はどのくらいだったか。 ・また、その復旧に関して、課題がどこにあったか、情報をどのように把握して、どこが足りなくて復旧をどうするのか等について改善しているところなどの状況などを教えていただきたい。	千葉県	・断水期間は、台風15号はで17日間、19号は6日間、10月25日の大雨は3日間であった。 ・停電や浸水に起因する断水被害を踏まえ、停電対策として非常用発電設備の整備や防水扉等の整備を進めていくこととしている。
佐藤委員	・平成6年、8年渇水時の具体的な影響について、工業用水では操業短縮等と報告があった。 ・例えば、トータルで何時間の操業短縮をせざるを得なかったかというような何か指標になるものがあれば、それぞれの渇水規模が分かると思う。	千葉県	・工業用水では、平成6年渇水の30%取水制限時には、取水制限の対象となった233社のうち4社で、平成8年渇水の30%取水制限時には、対象245社のうち11社で、操業短縮の影響が発生した。なお、操業短縮時間については情報がなかったため不明である。
佐藤委員	・農業用水については、被害について特に影響なしという報告であるが、恐らく水田の収量が、特に減少することはなかったという意味だろうと理解している。 ・多分大変な苦勞をしていると思うので、特に影響なしと書かれると、これは少し誤解を生むのではないかと思う。	千葉県	・農業用水については、用水管理の強化やポンプの運転時間の調整などの対策を講じたことにより、農作物への影響は発生しなかった。

委員名	ご質問	都県名	ご質問に対する回答
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県では利根川・荒川水系の他に、他水系として県内河川も管理されている。 節水の割合の決定については利水者が相談して、協議して、互助の精神で決めるとなっているが、県内河川の場合、どのように節水について各部門で調整がなされているものなのか。 	千葉県	<ul style="list-style-type: none"> 県内河川における渇水調整については、利水者と関係者で構成される「県内河川渇水調整会議」を設置し、渇水に対して必要な事項を協議して、取水制限等の具体的な対策を講じることとしている。
豊田委員	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年の台風被害で、停電が起き、情報通信も遮断されて、被災地の様子が分からないなど、新たな脆弱部が出ており、現地の把握や職員の派遣等にも影響を及ぼしたと聞いている。 例えば東京都でも、配水が二重ルート化されているが、今後の対策として停電となっても操作系統に影響を与えない対策がとられているか。 	千葉県	<ul style="list-style-type: none"> 台風の被害情報を把握するにあたり、県では、一部水道事業者が停電で携帯電話や固定電話が通じないことがあったが、防災電話や防災ファックスにより連絡手段を確保していた。また、水道事業者は、水道使用者からの電話連絡により、断水範囲を特定するのが一般的であるが、停電により電話が通じなかったため、現地確認により断水件数を把握する必要があり、被害全容の把握に時間を要した。 昨年の台風15号等一連の災害時には、情報通信網の寸断の影響による断水被害は確認されていない。
木場委員	<ul style="list-style-type: none"> 台風15号、10月25日の大雨、台風19号の災害に関して、台風19号が、断水の割合が他の2件に比べて、停電との兼ね合いで、非常に少なく感じるが、台風19号だけ断水が少なかったのは、何か要因があるのか教えて頂きたい。 	千葉県	<ul style="list-style-type: none"> 台風19号では、台風15号と比較し停電期間が短期間であったため、影響を受けた配水施設や送水施設などの水道施設が少なかったことにより断水件数が少なかったものと考えられる。 なお、10月25日の大雨による断水は、浄水場の浸水によるもので、停電とは関連していない。